

第3回 あすの川西町の小学校を考える協議会 会議録

- 1 日 時 平成26年1月25日（土）午後2時00分～5時00分
- 2 場 所 川西町生きがい交流館
- 3 出席委員 馬場委員、廣居委員、片倉委員、菅井委員、大木委員、長澤委員
寒河江委員、玉田委員、島貫委員、田中委員、佐々木委員
渡部（昭）委員、金子委員、天笠委員

4 説 明

(1)小学校学区再編に関する懇談会の内容について

【委員より】

(委員①)

懇談会に参加して、以下のような意見等がだされた

- ・中学校統合、幼児施設統合は騙しうちだったという意見
- ・旧二中の利活用に関する意見
- ・懇談会での意見がどう反映されるのか
- ・積極的な賛成ではなかったように感じた
- ・通学面での充実を優先すべき
- ・段階的に統廃合を進めた方が良いのではないかという意見が多かった

(委員②)

- ・保護者の意識が低いのではないか
- ・若い人の関心が低く、どのようにすればいいのか検討すべき

(委員③)

- ・若い人は、再編についてマイナスのイメージを持っていないが、年配者の方は慎重な人が多いようで、意見が分かれている感じである

(委員④)

- ・小松小学校は無くならないという感じがあり、統合後の質問が多かったようだ

(会長)

- ・意見集約の方法をどうしていくか、大事になっていく課題である

(2)山形県内の学校数の推移について

(質疑なし)

5 協 議（2つのグループに分かれて意見交換）

(1)小学校学区再編の方向性について

【1班】

- ①再編後の空校舎等の有効活用について合意形成が必要
- ②学校規模の考え方の整理
- ③地域間の温度差の解消

- ④再編後の児童数のシミュレーションの説明
- ⑤住民の不信・不安払拭
- ⑥事務局と協議会が一体化しなければならない

【2班】

- ①学校規模として1学年20人は確保したい
- ②人数でのイメージはつかないが、クラス替えがあれば集団の中で人間関係が育っていくのではないかと、1学年複数学級あった方がいいのではないかと
- ③教育効果は人数だけでないと思う。全校生40人前後でも悪いイメージはない。若い人は賛成の意見が多いが、地区民は違っている。ただ、全校生が20人となると学校経営がやっていけるか疑問になる
- ④町全体としての、つながりを意識すると違ってくるのではないかと。広い視野で見れば、町全体が一つの地域として見れば違ってくるのではないかと
- ⑤段階的な再編による複式解消という環境が、いいのではないかと
- ⑥2校にこだわらず、合意の整ったところから進めてはどうか
- ⑦学区（通学区域）そのものの見直しが必要でないかと

(2)学区再編の基準・ルール化について

*統廃合を検討する基準・検討の開始段階

【1班】

- ・若い人の参加率を高め、説明をしっかり行うべき
- ・具体的には事務局例の①（これから複式学級が発生すると見込まれる1～2年前から）か②（完全複式学級の学級編成が見込まれる1～2年前から）
- ・事務局例③（地域や保護者（PTA）等の合意を得て、検討要請を受けた次年度から）が、一番不安が少ない
- ・耐震化して、すぐに廃校にならないように
- ・現実的に事務局例①（これから複式学級が発生すると見込まれる1～2年前から）はあり得ない、事務局例②が一番か
- ・住民が主人公となるように検討を進めるべき

【2班】

- ・町教委が提示した、教育環境ステージが変わる段階で検討を始めるべきでないかと
- ・早い方がいい

(3)今後の進め方について

（質疑なし）

6 その他

【委員より】

- ・若い人の意見を吸い上げるため、ネットの活用や意見箱の設置を検討してはどうか
- ・統合のモデル例を研究してはどうか